

駒大生社会連携プロジェクト ニュースレター

SEED (シード)

Vol.037

- 今年度の駒大生社会連携プロジェクトについては、[令和8年度「駒大生社会連携プロジェクト」](#)をご覧ください。
- 駒澤大学の社会連携に関する最新情報は、[社会連携センターのホームページ](#)のほか、社会連携センターSNSでも発信中です。フォローよろしくお願いします！
[X \(@koma_collabo\)](#) [Instagram \(koma_collabo\)](#)

経営学部 青木 茂樹 先生主担当プロジェクト

駒コレ始動！古着&コスメ回収の現場を追う！

活動テーマ Komazawa Used Collection (駒コレ) ～新しいサステナブルの形～

駒澤大学で、持続可能な社会をテーマにしたプロジェクト「Komazawa Used Collection (駒コレ) ～新しいサステナブルの形～」を開催します。これは、秋の学園祭「オータムフェスティバル」に合わせて企画しているもので、衣類や化粧品の有効活用を通じ、SDGs（持続可能な開発目標）への関心を高める狙いがあります。

本プロジェクトでは、「ファッション」「謎解き」「コスメ」の3軸で展開していきます。

メインのファッションショー「駒コレ」では、ラグビーチーム「リコーブラックラムズ東京」との意見交換を重ねるなど、地域連携を推進しています。学内や上馬まちづくりセンターに設置した回収ボックスで集めた古着を、ショーやフリーマーケットで活用する予定です。

謎解き企画では、参加者がストーリーに沿って環境問題を学べる体験型イベントを制作します。遊びを通じて持続可能な社会への理解を深める構成を目指しています。

コスメ企画では、不要になった化粧품을学内3箇所の回収ボックスで集め、コスメアート作品として展示する予定です。併せて、化粧品の動物実験問題についても取り上げ、環境や生物に配慮した消費行動を呼びかけます。

私たちは現在、オータムフェスティバルに向けた準備を進めると同時に、学内での古着や不要化粧品の回収への協力を広く呼びかけています。



▲キャンパス内の古着回収ボックス



▲上馬まちづくりセンター古着回収ボックス

法学部 逢坂 巖 先生主担当プロジェクト

高尾町で2泊3日の合宿を実施しました！

活動テーマ 選挙リテラシー向上のための世田谷選挙管理委員会との協業

本プロジェクトでは9月2日から4日に東京都八王子市高尾町で合宿を行いました。この合宿では、それぞれの学年が前期に行った活動を振り返り、後期に向けてのプレゼン会を行いました。普段交流がない学年同士で意見交換や作業を行いました。

〇1日目

前期の出前授業のアンケート分析に加え、
*NHK財団が主催するインフォメーションヘルス・AWARD(以下IHA)へ応募するための資料作成を行いました。表やグラフを用い、出前授業の効果や今後の課題を2年次生のみんなで洗い出しました。

それを踏まえ、IHAには、「若者の選挙リテラシー教育」を通して情報空間の課題を解決する取り組みとして、前期に取り組んできた出前授業のアイデアを応募する予定です。



〇2日目

2・3年次生で高尾山に行き、私たちのプロジェクトが成功するよう心願成就の御護摩修行を薬王院にて行いました。

その後、3日目のプレゼン会に向け、2年次生はIHAの資料作りを、3年生次生はアンケート・インタビュー調査に向けての資料作りに勤しみました。2日目の活動を通して2・3年次生の距離が縮まったことにより、今後のゼミ活動をより円滑に進めることができます。



*NHKインフォメーションヘルス・AWARD...

健全な情報環境を築くこと(情報的健康)につながるアイデアや取り組みを募集・表彰するコンテスト

〇3日目

高尾町の浅川市民センターをお借りして、2年次生と3年次生で前期に行った活動の振り返りとそれを踏まえ、後期に向けたプレゼン会を行い、内容がさらに良くなるように意見交換を行いました。

2年次生はまず、前期に行った出前授業のアンケートと感想をまとめて発表しました。アンケートからは小学生ならではの面白い感想や発見があり、集計すると様々な事がわかりました。前期に実施した出前授業は小学生たちにとってどのような効果があり、また課題は何か3年次生と意見交換を行い、じっくり考えることができ、とても充実した時間になりました。

次にNHK財団が主催するインフォメーションヘルス・AWARD（IHA）に応募するためのアイデアについて意見交換を行いました。IHAとは一人ひとりがより良く生きられる社会を目指して、情動的・健康的につながるアイデアや取り組みを応募するものです。2年次生は前期の取り組みをアイデアとして、応募予定です。意見交換会では初見の3年次生が実際の審査員の気持ちになって文章の説明や表現が適切かどうか一緒に考えました。現在の状態からさらに良いものにしていくために意見を交わして、応募用に仕上げていきました。



3年次生はまず、駒澤大学内で逢坂先生の講義を受講している2～4年次生を対象に前期に行ったアンケートの結果について発表しました。このアンケートでは後期に実施する東京都に住む若年層を対象としたネットアンケートを実施する前の試験的なものとして行いました。アンケートの集計は大変でしたが、後期のネットアンケートに向けて質問内容の改善や専門的な集計方法を学ぶことができました。

次に後期ではネットアンケート結果を用いてインタビューをする予定で、そのインタビューの候補先についてプレゼンをしました。若年層に向けた取り組みをしている団体や若者の投票率に注目し自治体を選んでいきました。候補には様々な取り組みをしている団体や自治体があり、インタビューをするのが楽しみです。

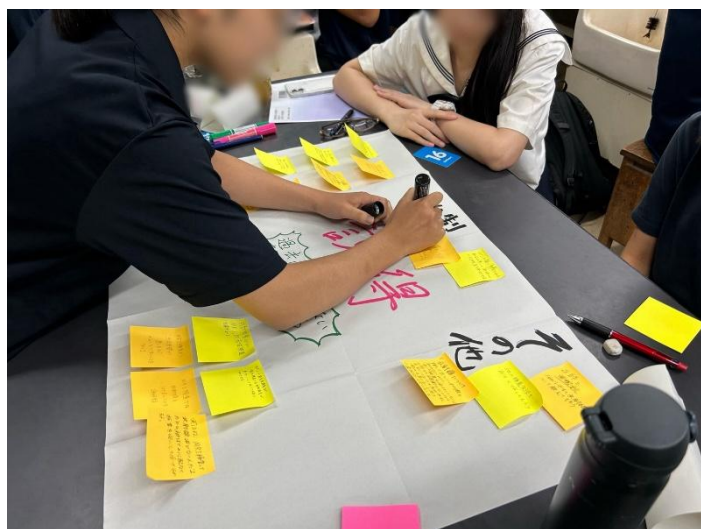
医療健康科学部 村田 渉 先生主担当プロジェクト

高校生からタイの大学生まで、ゲームを通じた放射線教育の輪が広がりました！

活動テーマ RED-RINGプロジェクト：

～放射線教育の自走化に向けた標準教材の完成と普及基盤の整備～

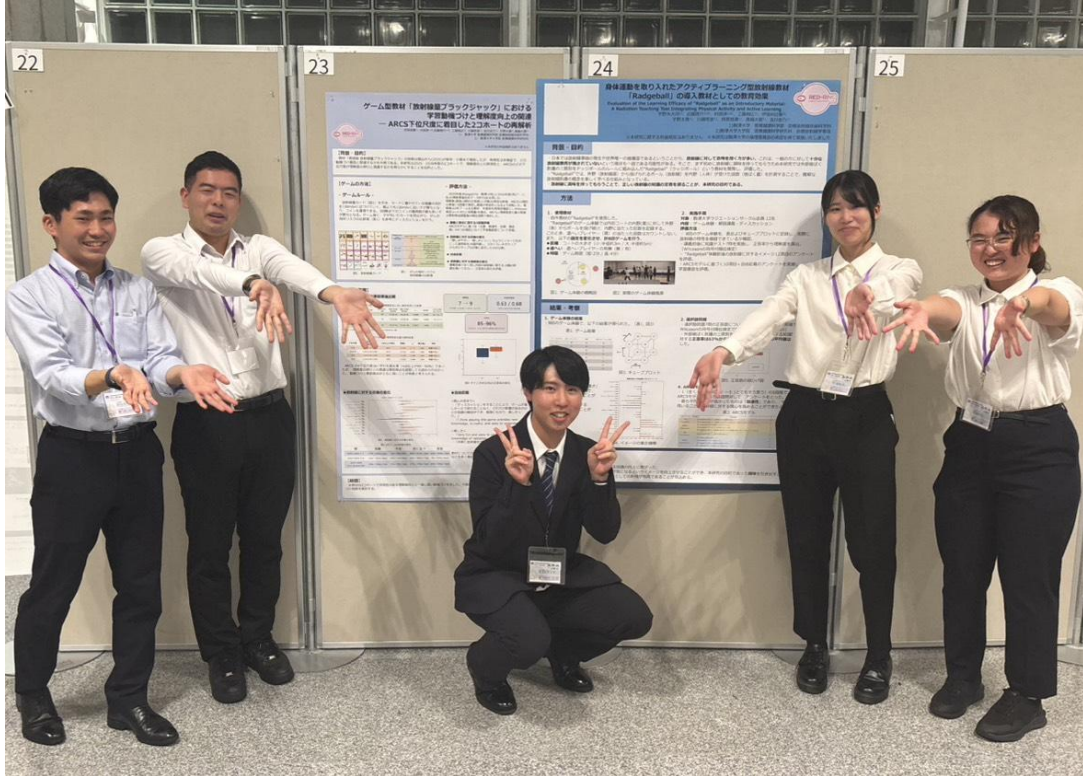
7月16日には東京都立小松川高等学校で連携企画を実施し、生徒の皆さんに教材「放射線ブラックジャック」を体験してもらいました。放射線に対するイメージは「危険・不安」から「役に立つ・信頼できる」へと大きく変化し、知識テストの得点も伸びるなど、手応えのある結果が得られました。



7月26日・8月2日のオープンキャンパスでも同教材を使ったミニ講義とゲーム体験を実施しました。今回は高校生だけでなく保護者の方にも一緒にゲームを楽しんでいただき、親子で放射線について考えるきっかけになりました。



7月1日にはラジェーションサークルの皆さんの協力のもと、ドッジボールに放射線防護の考え方を組み込んだ新しい教材「Radgeball（ラッジボール）」を試行しました。距離・時間・遮蔽という外部被ばく防護の三原則を、体を動かしながら体感できる内容です。この取り組みの成果は、9月5日につくば国際会議場で開催された第20回日本診療放射線学教育学会学術集会にて、メンバーがポスター発表を行いました。



8月には、PSU大学（タイ）を訪問したメンバーが、現地の学生との交流の場で「放射線防護カードゲーム」の制作について紹介しました。英語でのやり取りに苦労する場面もありましたが、カードゲームをきっかけに自然と会話が生まれ、国境を越えて仲を深めることができました。



今後も、学校・地域・海外とのつながりを広げながら、放射線教育の輪を広げていきます。

経営学部 杉西 優一 先生主担当プロジェクト

冬季デジタルスタンプラリー実施に向けた現地調査を行いました！

活動テーマ 動物園の新たな楽しみ方をデザインする —みんなの視点で考える未来のかたち—

前回報告した通り、私たちのプロジェクトでは、よこはま動物園ズーラシアにご協力いただき(1)動物の動きも、来園者の足取りも鈍りがちな冬季に、動物園をより楽しんでもらうための施策、(2)雨天や時間制限など、限られた条件下で広い動物園を最大限楽しむための施策、という2つの方向性で、動物園の魅力を引き出す新たな楽しみ方を検討しています。今回は、施策(1)の検討状況をご報告します！

動物園では一年を通じて、特に冬季に来園者数が落ち込む傾向が見られます。屋外施設であることや冬季の動物の活動状況の変化が原因と考え、今年の1、2月によこはま動物園ズーラシアで現地調査・来園者アンケートを実施しました。その結果、冬でも魅力的な動物や冬ならではの動物が存在することが確認された一方、広い園内には寒さで活動量が低下した動物や展示休止中の動物も混在していることがわかりました。こうした状況が、来園者の満足度に影響していると推察されます。そこで、冬の動物園ならではの魅力(冬ならではの動物の習性や映えスポットなど)を来園者に伝えることで、満足度の高い来園体験と集客効果につなげたいと考え、現在その発信イベントの提案・準備を進めています。



▲6月17日の打合せの様子



▲8月2日現地調査の様子

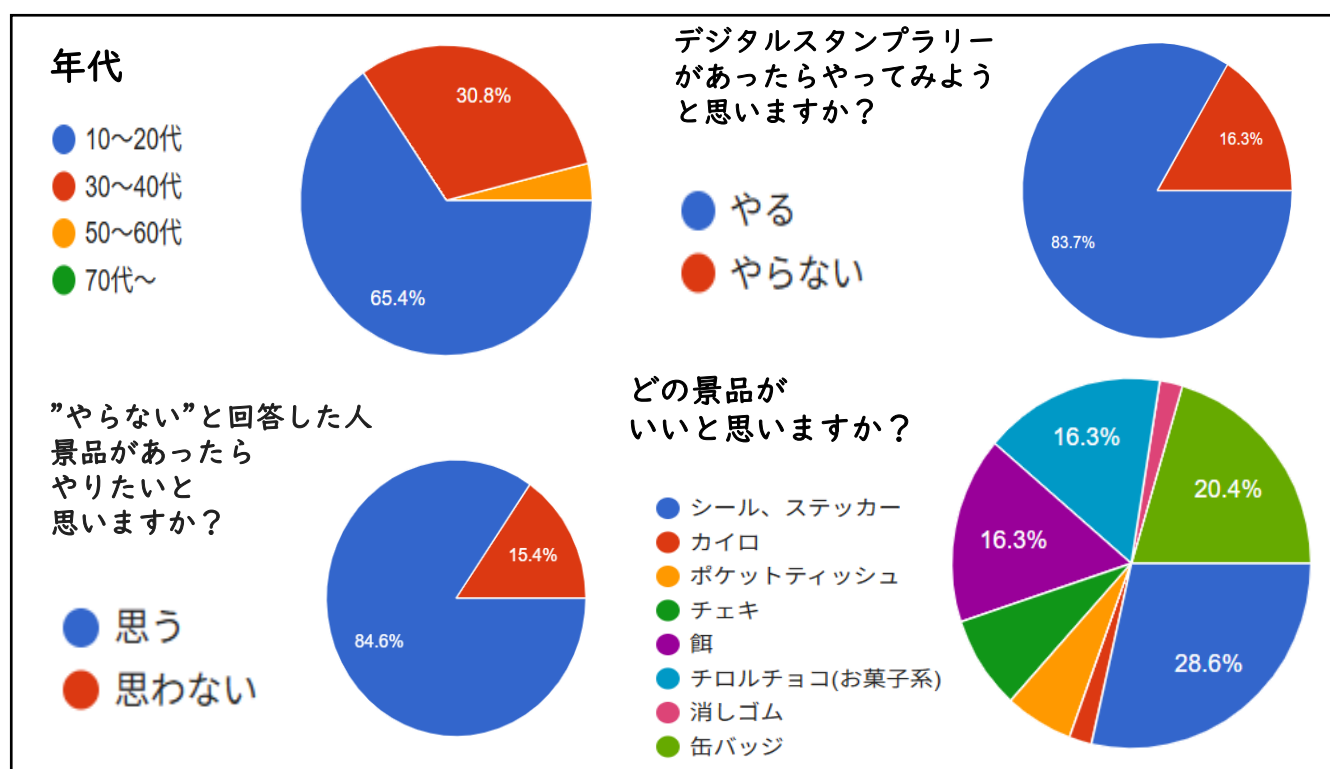
イベントとして、よこはま動物園ズーラシアのご担当者との複数回の打合せや現地調査を経て、冬季限定のデジタルスタンプラリーを企画することとなりました。時期は12月～1月のうち2週間実施する予定で検討しています。



◀デジタルスタンプラリーのイメージ
ポスター(左)とスタンプ(右)

6～8月に、デジタルスタンプラリー・イベントの実施に向けて、準備のための現地調査を行いました。園内の電波状況の確認に加え、スタンプラリースポットやポスターの設置候補場所の撮影、スタンプラリーに使用する素材の収集を行いました。また、デジタルスタンプラリー・イベントに関する来園者のニーズを把握するため、簡易アンケートを実施し、52名の方にご協力いただきました。

現地調査とアンケートの結果から、デジタルスタンプラリーの景品やターゲット層について検討しました。アンケートから、景品も参加を促す要素となることが分かりました。そのため、スタンプを一定数以上集めた方に配布する景品を用意することが決まりました。景品については、アンケートで最も回答が多かったシール・ステッカーを第一候補として、準備を進めていく予定です。



▲8月2日アンケート結果

ターゲット層については、現地調査で50代・60代の来園者が比較的少なく、アンケートでもデジタルスタンプラリーへの参加に消極的な方が見られました。そこで、より多くの来園者に楽しんでもらえる施策を目指し、今回のスタンプラリーの主なターゲットを家族連れに設定することにしました。

現在は、家族連れをターゲットとしたコンセプト案の作成や、具体的な運営方法について、引き続き検討を進めています。今後は、冬季の本番実施に先立ち、1日限定のデジタルスタンプラリーを試験的に実施する予定です。試験運用では、実際の参加者数や需要を確認するとともに、ポスターがどの程度見られているか、参加促進に効果的な設置場所になっているかを検証します。また、スタンプラリーの運営や景品の受け渡しが行き渡りやすいかなど、実際に運用する中で課題を確認し、冬季に実施する本番の実施に向けて改善を重ねていきます。

来園者の皆様に冬のズーラシアをより楽しんでもらえる企画となるよう、メンバーで協力しながら準備を進めていきます。

経済学部 松田 健 先生主担当プロジェクト

プロジェクトに関わる茨城県内の県庁・市役所や企業を訪問しました！

活動テーマ 食から空へ—再価値化による循環型社会

茨城県における廃食用油由来SAF（持続可能な航空燃料）を活用したエネルギー地域循環モデルの確立に向け、利用・導入の拠点となる茨城空港の現場視察を行いました。

さらに、茨城空港の立地市である小美玉市役所を訪問し、担当部署の方々のご挨拶を兼ねた意見交換を行いました。自治体における現在の廃食用油回収の実績や地域での取り組み状況を確認するとともに、将来的な回収拡大に向けた課題や今後の運用見通しについて、詳細なヒアリングを実施いたしました。



▲茨城空港訪問時の写真



▲小美玉市役所での様子

駒澤大学の学食で開催した『茨城フェア』に向けて実施したメニュー試作（とんかつ調理）において、実際に発生した廃食用油を持参のうえ、株式会社吉川油脂茨城営業所を訪問いたしました。現地では実務にあたるご担当者との意見交換を行うとともに、試作用の廃食用油を回収していただきました。

茨城県庁より『茨城を食べよう収穫祭2026』における事前・事後PRのご委託をいただいたことに伴い、今後の連携に向けたご挨拶および意見交換を実施いたしました。



▲株式会社吉川油脂茨城営業所を訪問時の様子



▲茨城県庁での打ち合わせの様子